

1. 開催概要

展覧会名	マグリット展	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	平成 27 年 3 月 25 日～6 月 29 日	343,292 人
京都市美術館	平成 27 年 7 月 11 日～10 月 12 日	190,062 人
<p>●開催概要</p> <p>ベルギーの国民的画家 ルネ・マグリット(1898-1967)は、20 世紀美術を代表する芸術家として知られ、彼が描いた独特の世界は現在でもなお映像表現や広告イメージなどにおいて影響を与え続けている。日本におけるマグリットの展覧会は 1970 年以降に幾度か開かれてきたが、今回のような本格的な回顧展は 2002 年以来、13 年ぶりの開催となった。</p> <p>今回、美術品補償制度を適用したことにより、より質の高い作品を数多く集めることが可能になり、約 30 箇所の美術館に加え約 40 もの個人所蔵家らの作品を展示することができた。その結果、本展は日本国内で開催されたマグリット展としては過去最大規模のものとすることができた。</p> <p>著作権の関係上作品画像の使用には大きな制限がかかったにもかかわらず、本展は新聞・雑誌でも大きく取り上げられ、著名人や専門家からは下記のようなコメントが寄せられた。</p> <p>「会場には 2009 年、母国に開館したマグリット美術館の所蔵資料や本人の言葉も多数差し込んだ。奇妙な人となり立体的に浮かび、好奇心をくすぐられる。」(永田晶子、毎日新聞、平成 27 年 6 月 3 日)、「本展では、初期から晩年にいたるまでの、意外に明瞭な作風の変遷を辿ることができ、殊に、ルノワールの顕著な影響が見られる『陽光のシュルレアリスム』期は興味深かった。」(平野啓一郎、日本経済新聞、平成 27 年 5 月 14 日)、「この展覧会はマグリットの漂泊から達成までを刺激的に見せてくれる。」(林 望、家庭画報、平成 27 年 7 月)、「マグリットの最新の研究成果が濃密な今回の回顧展は、美術ファンに限らず必見の催しである。」(ギャバン、平成 27 年 3 月)</p> <p>また、国立新美術館にて行われた一般来場者によるアンケートでも、「これほど大規模な展示はマグリットを知るうえで非常に有意義でした(70 歳以上男性)」、「マグリット美術館所蔵の作品以外の作品を生で見たことがなかったので、大変楽しかった(40 代男性)」、「展示点数が多く見応えがありました(20 代女性)」など好意的な意見が寄せられた。</p> <p>最終的には、東京会場、京都会場とあわせて 53 万人を超える来場者を迎えることができ、多くの国民に広く美術鑑賞の機会を提供することができたと考えている。</p> <p>※入場者数は開会式、内覧会等を含む</p>		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

以下のとおり、国民的利益の還元に努めた。

(1) 展示作品の質・量の充実

補償制度を適用したことにより、世界各地の美術館・個人が所蔵する作品を幅広く借用することが可能となり、マグリットの画業を厚みをもったかたちで紹介することができた。

(2) 鑑賞環境の維持、鑑賞機会の拡大

国立新美術館では、通常実施している金曜に加え、4月25日ならびに5月23・24日、30・31日に、京都市美術館では9月19・20日に開館時間を延長し、鑑賞環境を適正に維持しながら、広く国民に鑑賞機会を提供することができた。

(3) 教育普及活動の充実

マグリットに関する理解をより深めてもらうため、国内外の専門家を招聘した講演会や担当学芸員によるギャラリートークを開催した。詳細は下記の通り。

【国立新美術館】

- ・講演会(3月25日、約250人参加) 講師=ベルギー王立美術館 ミシェル・ドラゲ館長
- ・担当学芸員による作品解説会(5月17日、6月3日 いずれも約250人参加)
- ・小中学生の作品鑑賞の手助けとなる「鑑賞ガイド」を3万部作成し・配布した。

【京都市美術館】

- ・講演会(いずれも約80人参加)
 - 7月11日 講師=兵庫県立美術館 速水豊 企画・学芸マネージャー
 - 8月2日 講師=京都市美術館 潮江宏三 館長
 - 9月6日 講師=京都市美術館 尾崎真人 学芸課長
- ・担当学芸員による朝の解説講座(7月12日、19日、26日、8月30日、いずれも約80人参加)
- ・担当学芸員による夜のギャラリートーク(9月19日、約100人参加)

(4) 入場料の無料化・軽減

国立新美術館ではすでに実施している中学生以下の入場料無料措置(11,519人来場)に加え、3月25日から4月13日までの18日間を高校生無料観覧日とした(2,340人来場)。

京都市美術館では日曜・祝休日の計19日、小・中学生の入場料を無料とした(5,050人来場)。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

平成 27 年 7 月 17 日から同月 29 日まで、京都市美術館の温湿度を管理する空調機の冷却器 2 基のうち 1 基が稼動しなくなり、冷却器が 1 基のみの運転となったことで冷却器の水温が上昇し、除湿機能が低下した。このため 7 月 28 日から同月 31 日まで一時的に休館し、緊急修理を行って温湿度状態の安定を見極めた上で、8 月 1 日から再開館した。

4. 安全配慮に関する特別の対応

所蔵者や関係者と十分に協議し、陸送時の民間警備会社による警護を含め、万全の体制で輸送・展示作業にあたった。

入場者の増加に対しては、迅速に誘導スタッフを増員するとともに、入場制限を行い、過度な混雑が展示室内で生じないように誘導を工夫した。また、京都市美術館では展示会場が比較的狭いため、すべての作品に結界を設けて、作品と入場者の安全確保に努めた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本制度の適用によって、世界中の美術館や個人で所蔵されているマグリット作品を幅広く借用でき、作家の画業を一望する展示内容にできたことは「広く国民に優れた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨に合致していたといえる。

本制度の適用については、チラシや展覧会ホームページなどで広く告知したほか、展覧会会場入口などにも記載することで、来場者に対して制度の適用を強くアピールした。

会場内に設置した来場者対象のアンケート(平成 27 年 4,5 月のうち 9 日間実施)においては、回答総数 427 人のうち 228 人(=53%)が 30 代以下の若年層であり、とくにそれらの世代の満足度が高かった。これまで美術展になじみの少なかった世代にも強く訴求する展示構成にできた上、本制度の認知度を高めることにも寄与したと自負している。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

国立新美術館、読売新聞社、TBS

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	577,771,652
共催者負担	2,712,001
収入総額	580,483,653

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	354,043,078
設営・運営等会場関係費	226,440,575
	580,483,653

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

京都市美術館、読売新聞社、MBS

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	312,113,731
共催者負担	3,332,589
収入総額	315,446,320

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	185,987,268
設営・運営等会場関係費	129,459,052
	315,446,320